

# 令和6年度授業改善プラン

- (取り組み内容)
- ・毎学期の終わり、自分の担当(各学年ごとに項目だて)の授業に関して作成する。
  - ・本年度の自己の研修課題に関連し、自己の授業を分析し課題を見いだす。
  - ・見いだされた課題に対し改善プランを立て、指導方法の工夫・改善を図る。
  - ・学期の終わりに検証を行い、来学期につなげていく。

教科名(理科) 教科主任名 中川 徹

★教科・観点について  
 学力向上のための調査・期末テストび学期の学習状況、生徒の授業アンケートをもとに分析し記入する。<○成果 ▲課題>

観点	前半～9月			後半～1月		次年度に向けて まとめ
	学年	課題分析	具体的な改善策	学年	課題分析(授業改善・プランの1次評価)	
知識・技能	1年	○平均達成率64.6%。 ▲顕微鏡の正しい手順を理解することが課題である。	小テストの機会を多くし、知識の定着に努めさせる。	1年		
	2年	○1学期の平均達成率は63.2%であった。学習内容の基本事項については、概ね理解することができている。 ▲実験操作が不慣れである生徒が見られる。	定期的の小テストを行い、学習内容の定着を図る。またガスバーナーの使い方など、実験操作の基本事項について、再度確認を行わせる。	2年		
	3年	○1学期平均達成率62.3%。基本用語や実験操作など概ね理解できている。 ▲実験の手順を何度も確認したが、スムーズに進まない班があった。	実験を進める作業を何ステップかに分け、少しずつ説明を行っていく。また、実験の説明をする際に実験器具の使い方の映像や実演で見せることで、視覚的に理解させる。	3年		
思考・判断・表現	1年	○平均達成率57.4%。 ▲図や表の読み取り支援を要する生徒が見られ、今後も継続的に取り組む必要がある。	授業内で図や表を読みとる機会を多くとり、「問題を解けた」という成功体験を感じさせ、結果として生徒の苦手意識をなくさせる。	1年		
	2年	○1学期の平均達成率は53.2%であった。 ▲実験結果を踏まえて考えを深めたり、自分の言葉で考えを記述することに苦手意識がある。	考察や課題に対する結論を記述する際にキーワードを示すなど、論述方法についての助言を与える。また授業内で問いに対して、考えを深めさせる機会を与える。	2年		
	3年	○1学期定期テストの達成率は57.4%であった。 ▲適切な思考や判断につながる知識の活用が課題であると考えられる。	既習事項を確認し、新しく習う内容と1・2年次とのつながりをしっかりと理解させる。	3年		
主体的に学習に取り組む態度	1年	○平均達成率75.3%。 ▲ノートなどしっかり書いている生徒とそうでない生徒で二極化してしまった。	ノートやプリントに取り組むよう、根気強く声掛けを行っていく。また、ノートを集める機会を多くし、細かくチェックしていく。	1年		
	2年	○1学期の平均達成率は64.0%であった。 ▲プリントの記入が丁寧に行われていない生徒が見られた。また、メモをとったり、自分なりのまとめをしたりしている生徒は少ない。	プリントの記入例を示したり、日常生活と関連した話題を取り入れたりするなどして、意欲的に学習に取り組む習慣を付けさせる。	2年		
	3年	○1学期平均達成率63.6%。授業で扱った内容を用いて考える課題を設定したり、1・2年次の内容を定期試験に出題したりした。 ▲知識や思考力を活用することが得意な生徒、苦手な生徒で課題への取り組みへの意欲に差があった。	粘り強く取り組む姿勢を促す指導、助言を継続していく。	3年		